

科目	数学Ⅱ	単位数	4	学年	2	学級	ABCDEF G(選択者)	学科	普通科 国際教養科
----	-----	-----	---	----	---	----	------------------	----	--------------

学習の到達目標	問題を適切に処理し、計算能力を高める。
使用教科書 副教材等	教科書「高等学校 数学Ⅱ」(数研出版) 副教材「4プロセス 数学Ⅱ」(数研出版)

学期	月	学習項目	学習内容の説明
前	4	第4章 三角関数	三角関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 三角関数の加法定理の有用性を理解し、弧度法の内容を考察する。
	5	第1節 三角関数 第2節 加法定理	
	6	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	分数式の計算や式と証明についての理解を深める。
	7	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	複素数は数学の理論としてばかりではなく、現実のいろいろな現象の解明にもよく使われることを理解させる。方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 座標や式を用いて直線の基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。
	9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	
後	10	第2節 円 第3節 軌跡と領域	座標や式を用いて円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。
	11		
	12	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 たとえば、微生物の増殖、放射性物質の崩壊などがそうである。
	1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	微分法の定義を理解させる。 具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。 $\int_{\alpha}^{\beta} a(x-\alpha)(x-\beta)dx = -\frac{a}{6}(\beta-\alpha)^3$ を理解させる。
	2		
	3		

評価の観点及び評価の方法	関心・意欲・態度	自ら問題解決ができていますか。
	数学的な見方や考え方	さまざまな視点から考えることができていますか。
	数学的な技能	計算が的確に処理できていますか。数学的な解答になっているか。
	知識・理解	関数の定義をしっかりと理解できたか。
	評価方法	定期考査を7割から8割程度とし、提出物、授業への積極的参加、4つの観点を総合的に評価し、平常点を2割から3割程度の配分で評価する。
担当教諭から	授業中はノートを取ることにばかりに気をとられずにしっかりと話を聞き、質問をしてください。	